

Living & Lifestyle Magazine

LIVES

| ライヴズ | 隔月刊 | スタイルのある家を手に入れる情報誌

2008 FEB.&MAR.

VOL.37 | 980yen

あなたが欲しいのはこんな家？



住まい & ライフスタイル カタログ

2008年

Living With Kids.
子どもと暮らす家

こだわりの住まいを叶える
優良ビルダーズ特集・全国版

デザイナーズハウスに住む！

賃貸派も持ち家派も必見！08年の住宅トレンド

Knocks on the creator's door

酒井俊彦

● プロダクトデザイナー

今年の目標は、仕事し過ぎず、丁寧に。
手抜きは絶対に使い手にバレますから。

約2年半前、千駄ヶ谷の閑静な住宅街から賑わいのある原宿へと
アトリエを移転させた酒井俊彦さん。

インテリアもポリカーボネート製パーテーション&タイル床材を用いた
ハードテイストから、木製パーテーション&絨毯敷きといった温かみある空間へと一変。
仕事場と最近のお仕事について伺いました。本企画初の2回目のご登場です。

text: Yuriko Nagashima photographs: Ayako Mizutani

Toshihiko SAKAI

Product Designer

さかい・としひこ ● 1964年高知県生まれ。87年東京造形大学デザイン学部卒業。89年～91年コーゾーデザインスタジオ勤務。オーストラリア滞在后帰国し、92年サカイデザインアソシエイツ設立。数多くの工業製品のデザインやプロダクトアイデンティティの構築を手がける。また、カフェや音楽スタジオ、エキシビションの空間構成などのインテリアデザインや、椅子やテーブルなどの家具のデザインも行う。「おいしいキッチンプロジェクト」ではデザインディレクターを務める。今春、昨秋に米国で先行発売されたミュージックプレイヤーが日本でも発売予定

SakaiDesign

☎ 03-5778-3886

e-mail : info@sakaidesign.com

URL : http://www.sakaidesign.com



上／リビングに置いても違和感のない
マッサージチェア「Celebisu」。2005
年グッドデザイン賞受賞 〓マルタカ
☎ 03-3543-6510 中／シングルソ
ファ「YOKO」。1992年にデザインし、
2005年にパントンから再デビュ
ーした 〓福地 <http://www.fukuchi.biz>
下／2004年東京デザイナーズウィ
ークのプロ作品展「イスと小物家具たち
展」出展作品



PANTONE disposable lighters

パントンシリーズの使い捨てライター。タバコ2本分の
空きスペースでタバコケースにすっぽり収まる。また、底
が砲弾型になっていてケースへとスムーズに。さらに、
点火ボタンがケースの縁三方に少し乗っかる状態になる
ため、ライター本体がケースの中に埋もれることもない
〓フジサワ ☎ 03-3882-1991



Spider01

薄型テレビの横に並べて置ける薄型ハードディスクDVD
レコーダー。購入してメインスイッチを入れたら、8チャ
ネル分の一週間の番組をすべて自動的に録画。おス
メ番組をネットで教えてくれる機能も搭載。自立する機
械をテーマに素材、光の透過や光り方を決定していった
〓 PTP <http://www.ptp.co.jp>



Lake-Lotus

「はすの花のようなバーナーが、水面に浮かぶシンク」と
いうメーカーの希望を具現化したシステムキッチン。業
務用の「丸洗いでできるシンク」という良さを抽出し、家
庭用に再構築した。業務用厨房機器メーカーのタニコー
テックと組んだ、おいしいキッチンプロジェクトの製品
〓おいしいキッチンプロジェクト info@o-kitchen.com



パントンの製品の数々。ライ
ターは、タバコと一緒に置いたと
きにマッチし、かつ4本並べたと
きにも美しい色をセレクトした

「トントン、お邪魔します。神宮
前交差点に程近い便利な立地ですね。
立地を最優先に、「東京R不動産」
で探しました。若い人で溢れる活気
のある街だから楽しいですよ。土日に
仕事に来ると少しムカつきますけど。
——室内デザインは酒井さんが？
——ほぼスケルトン状態だったので、図
面を引いて、知り合いの工務店に仕上
げてもらいました。
——今回もシェアオフィスですか？
——前は4組で、今回は2組でシェアし
ています。ただ、4組の動線が同じ
だったのに比べ、ゾーニングや玄関か
らそれぞれのデスクワークスペースま
での動線をハッキリと分けてました。打
ち合わせスペースもコンパクトにまと
めて独立させています。さまざま
企業と仕事をするフリーランスとし
て、情報セキュリティ対策は非常に重
要ですから。
——オリジナルの大型木製パーテー
ションで区切っているんですね。
——デスクスペース側は棚になっていま
す。引越した頃、無性に木製の長
い棚をつくりたかったんですよ。あと、
以前はハード色が強かったんで、今度
はやわらかな空間にしようかと。キッ
チンツールのプロジェクトが始まった
時期で、女性的なテイストも必要か
なくなんて思ったり。棚のサベリ材に
合わせ、絨毯の色も穏やかなブラウ
ンを選びました。
——「おいしいキッチンプロジェクト」
がスタートした時期ですね。
——福井市の地域産業創造会議から、
まな板のデザインを頼まれたのがきつ
かかったんですけどね。
——えっ、まな板のデザインだけ？
——そう（笑）。まったく興味が持てな
かったんですけど、伺いました。そし
たら、約20の候補企業があつて、ど
こがつくるのかも決まっていなかつ
た。技術力はあるけれど、売れるモ
ノへと繋げることができず、試行錯
誤されていたんです。そこで、まな
板がで上がったところでどのよう
に売るのが？ プロダクトをひとつだけ
つくっても地域活性には繋がらないの
では？という疑問を投げかけると共
に、少しでもモノづくりに関する話を
したところ、後日プロジェクトとして
話をいただきました。
——ディレクターの仕事が始まった。
——システムキッチンのデザインをし
ましたが、基本的にデザインディレク
ターが僕の役割。デザイナーのスキル
とメーカーの技術力の双方を考えて、
マイスターカンパニー1社につき、1
デザイナーを引き合わせました。今
は9組のコラボレーションが動いてい
ますが、参加企業が増えれば、デザ
イナーも増えるというシステムです。
大勢の人が参加するプロジェクトな
ので、値段やデザイン、技術力など
のバランスを保ちながらも、キマリや
枠をできる限りつくらないようディレ
クションしています。
——キッチンまわりということで、
女性的なデザインを意識しました？
——使い手のほとんどが女性だろうか
ら、ピンクを多めで、といったことは
ありませんが、心地良い使い勝手の
点では深く考えました。女性は男性
より小柄で手も小さいですから、そ
の点はいつも気をつけています。
——プロジェクトは成功しましたね。
——製品がある程度売れて、福井市の
補助金なしでやっていけるようになっ
たので、今のところは成功ですね。



スタッフのデスクから酒井さんのデスクを見る。デスクとワーキングチェアは前の事務所からの愛用品



パーティションのワーキングスペースサイドは棚として使用。ライトや情報機器のプロトタイプ、キッチンツールなど手掛けた品々を置く

いちばん良かったのは、一貫して買ってくれる人のことだけを考えた点かと。今、地場産業とデザイン力を掛け合わせるプロジェクトがたくさんありますが、そのほとんどが、地場の伝統技術がいかに素晴らしいかをアピールできる商品をつくりたがると思うんです。消費者は、素敵なモノは欲しいけれど、技術についてなんて関係ない。「伝統技術を使って新しいカタチがで上がりました！」って言われても、そんな新しさは求められていないと思うんです。おいしいキッチンプロジェクトは、福井市の名前も伝統工芸の名前もあえて前面には出していません。お洒落なキッチンツールだと思ってる人がほとんどだと思っています。それから、モノづくりから、ショップや売り方までトータルで考えられたのも良かったです。

—— 今後の展開は？

2006年までは、すべての商品のコンセプトを私が考えていて、昨年から各デザイナーとメーカーとのモノづくりが始まりました。最終的な目標は、各自で自由に仕事を進めて行ってもらいたい。そして、それぞれがおいしいキッチンプロジェクト以外の商品もつくり出せるようになったらと思っています。

—— それまでのデザインディレクション経験は？

おいしいキッチンの少し前から、お話をいただくようになりました。家電メーカーのインハウスデザイナーを集めたワークショップでは、次期開発商品の考え方やコンセプトを一緒に決めたり、提案しながらデザインを進めていったのですが、それまで正直良いとはいえないモノをつくっていたデ



デスクスペースはゆとりの広さ。外を眺めながら仕事を進める

デザイナーが、もの凄くちゃんとしたデザインをするようになるんですよ。ドラマチックに違うモノが出てくる。普段も同じように進めているはずですが、ここまでは時間が取れないんでしょう。で、そんな経験をして、ディレクターって潜在能力を引き出せるとても面白い仕事だな、地場産業でも使えるようになって思っていたときに福井市から声を掛けていただきました。

—— パントーンの仕事は？

定規やステープラー、ハサミなどの文具、ライター、携帯灰皿などをデザインしています。92年につくったシングルソファ「YOKO」は、2年前にパントーンとコラボレーションという形で、パントーンのタグを付けて8色展開で新発売に。基本的に廃れないデザインをしていきたいと思っているので、10年以上経って、また市場に出られたのは嬉しかったですね。

—— システムキッチン、情報機器、文具など幅広くご活躍です。

最近、手のひらに乗る嗜好品から、家までをデザインしています。プロダクト単体と、デザインディレクターといったトータルデザインの仕事、が半分半分ですね。以前と変わらず、小さいモノと大きいモノづくりに、境界線は設けていません。いつも考えているのは、モノが置かれる素敵な空間やモノがつくり出す幸せな環境についてです。

—— 2008年の目標は？

仕事をやりすぎない、ですね。仕事を請け過ぎると、どうしても粗が出てきてしまう。そして、それはカタチに表れ、消費者に伝わってしまいます。一つひとつ丁寧な仕事をしていきたいと思っています。